

はっぴい新聞

児童発達支援 放課後等デイサービス

9月号
2025 vol.66

児童発達支援

長い夏休みは終わったものの、暑さがまだまだ続いており、体調管理の難しい時期ですね。皆様には日頃より、ひまわり教室にご協力いただき、ありがとうございます。

さて、今回は肩甲骨周りの動きへのアプローチについてお話したいと思います。

活動中で行う粗大運動、手先の運動にはそれぞれの目的がありますが、実は連動しています。その間をつなぐ動きに大きく影響しているのが肩甲骨周りの動きです。鉛筆やハサミ、はしを使用するために手元での動きだけを練習させる直接的なアプローチも大切ですが、その動きにつながる腕の動きをつけるには肩甲骨周りの動きに硬さがあると手先の動きもスムーズに動かない場合が多く、日常の中で緩めるよう意識しておくことも大切だと考えられています。

支援の中では、肩甲骨をひきよせる運動として、「バランスボール」「タオル体操」「くもあるき、くまあるき（動物歩き）」「ボールなげ」など様々な形で肩甲骨を意識した動きを取り入れ、子どもたちが楽しく遊びを通して身体を動かすよう心がけております。最近では、大人でもパソコンやスマホの使用から前傾姿勢になり肩甲骨周りの動きが悪くなることで、睡眠の質がさがったり、自律神経に不具合が生じるようです。親子で一緒に楽しみながら室内外の遊びにとりいれることで、健康も維持しながら発達にもアプローチできるという一石二鳥の動きとなり、発達を促す効果が上がると考えますので、皆様も普段の生活の中で少し意識してお過ごしいただけたらと思います。



<腕を大きくまわす>



<ぶら下がり>



<たかい場所にタッチする>



<リボンまわし>



Instagram



You Tube

放課後等デイサービス

夏の特別イベント「カルピスカフェ」🍹

今年も8月に夏休み恒例のカルピスカフェを開催しました。

事前の準備では分量を量ってカルピスを作ったり、こぼさないように気をつけながら運んだり、一つひとつの工程を丁寧に行いました。さらに、お客様への招待状作りや室内飾り、コースター作りにも取り組み、子どもたちみんなでカフェの雰囲気を作り上げました。



実は、「カルピス」を使った共同調理や飲用の体験が子どもたちのコミュニケーション力や「相手の気持ちを考える力」を育むことが、近年の研究で示されています。

放デイで行われるカルピスカフェも、こうした教育的・研究的に裏付けられた要素も取り入れており、楽しみながらコミュニケーションや協力の力を育むことを目的として行っています。



子どもたちにはそれぞれ役割があります。注文を受けてドリンクを作る「コック」、お客様とのコミュニケーションを担当する「ウェイター」その役を交代しながら行います。自分の役割だけでなく、他の役割も経験することで、相手の立場や役割の大切さを学ぶことができました。

お客様を前に、緊張しながらもしっかりと自分の役割を果たしていました。お客様から「ありがとう」や「おいしかった」とお礼の言葉や笑顔を受け取ることで、自分たちの活動が認められる喜びを感じ、達成感や自信へと繋がりました。

カルピスカフェは、カルピスを作って飲むという楽しさに加えて、人と関わる経験を通して、協力する力や相手を思いやる気持ち、やり遂げる達成感を育む活動です。今後も子どもたちが楽しみながら成長できるよう、様々な体験を重ねていきたいと思ひます。

子育てハート便



指導員 金井

こんにちは、放課後等デイサービス担当の金井諒と申します。

先日、プレイセラピー(PT)の研修に参加しました。PTは、子どもが遊びを通して気持ちを表現・整理したり、社会性を身に付けたりするものです。言葉にできない思いを遊びで表現するため、大人が子どもを理解するときにも役に立ちます。「自分で自分をコントロールする感覚」を育めるのもPTのよいところ。子どもは大人ほど自由に言葉を使うことができません。そのうえ、自分で行動を決められる範囲が狭く、どうしても大人や状況に対して受け身に

なりやすい立場にあります。遊びを初めから終わりまで子ども自身がリードすることで、「自分で自分をコントロールする感覚」を育み、将来の自信や主体性、進路を選択する力につながると思います。

PTは専門の訓練を受けたセラピストが行いますが、日々の生活の中でも子どもたちの主体性を意識した関わりが大切です。また、PTでは、セラピスト自身が楽しむ心をもつことも大切にしています。私も楽しむ心を持ちながら、子どもたちの成長を支えていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

WISC-IV 知能検査

就学・転級先の判断材料として



対象：5歳～16歳11ヶ月
料金：5,000円
公認心理師：金井